



新たなる挑戦

横幹技術協議会 会長 桑原 洋*1,*2



このたび、横幹連合会誌「横幹」の創刊に際し寄稿の要請を受け、もとより喜んでお受けいたしました。縦割り社会があらゆる分野で進化している昨今、新たな発展へ向けての革新の必要性は多くの識者が共有するところです。

思い起こせば5年ほど前、木村先生方と「横断的基幹科学技術」の顕在化について熱い議論を戦わせ活動を開始したのをつい先ごろのように思い出します。その後、横幹連合、1年たって横幹協議会が設立されました。ここにきて、融合、統合、連携など新たな必要性も唱えられ、にわかに議論が賑やかになってきました。と同時に横幹技術を含めて、それぞれは何を意味し、何を解決してくれるのか、その存在実体はなんなのか、存在意義は何なのか改めて問われています。ここでは多くの「矛盾しながらも整理をしたい」難しい議論があるのですが、それよりも重要なことは、これからの社会が明らかに新しいものを要求していることであり、これに真っ向から向き合うことであると思います。整理よりもまず実践、実践の中から理念の抽出ではないでしょうか。あれもあり、これもあり、ともかく新しい社会の要請に的確に応えることを優先して行きたいと願っています。狭い範囲の技術だけでは問題の解決が出来なくなっているのは確実です。ここに検討すべき問題の根幹があると思っています。

しかしここで難問が立ちはだかっています。整理、理念の問題ではなく、縦割り社会に身を置くわれわれの心の問題です。新しい社会システムの開発には多くの技術

(自然、社会、人文科学を含む)の活用が必要です。それには参加するもの全員による一致協力しての開発行為が必要です。まとめ人、まとめられる人、全員の奉仕にも似た活動が必要です。ときには縦割りの技術からみて開発要素は全く無く、単にこれまでの知見を伝授することに止まることもありましょう。これが今の日本の学側でのモメンタムとして大変難しいのです。このままでは産学連携は危ういと痛感します。これにチャレンジ、実現してゆくことが先述した実践の実体でもありましょう。

横幹連合には多くの学会が参加されています。これからもより多くの学会が参加されることを期待しています。その中で、社会の要請に応える実践が、具体的に分かりやすい形で、産業界と協力しながら大々的に行われることを大いに期待しています。

企業もこれまでとは違った価値観と運営形態、そして理念を作り上げ、GDPの考えを捨て、世界に活躍する姿を自らの姿と捉えた指標による運営が必要です。

同じように科学技術も新たな視点で社会の役に立つ発展をしてほしいと願っています。また、さらに発展するための新たな理念の導入にも期待がふくらみます。しかし、縦割りの科学技術分野のもので世界に負けない進化は決して欠かせません。これはすべての前提として重要です。要は連携協力、そしてこれを重要と認識する価値観の醸成、共有であると思っています。

今後とも、「知の統合」を産業界とともに実践する横幹連合の活動に大いに期待しております。

*1 日立マクセル(株) 取締役会長

*2 元 内閣府 総合科学技術会議 議員